

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8) ー平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果ー

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV(8)
Class Reports and the results of a questionnaire survey

松 田 勇 一
MATSUDA Yuichi

要旨 本稿では、宇都宮共和大学において平成28年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した新入生に対して行った意識調査の結果を示した。授業報告では、当該科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、平成21年度春学期より初年次教育として「コミュニケーション講座」が開設され、松田（2010、2011、2012、2013、2014、2015、2016）はその授業報告と学生に対して行った意識調査の結果を示した。コミュニケーション講座は、主に口頭コミュニケーションや人間関係構築を重視した内容であったが、平成28年度のカリキュラム編成により、話す聞くの部分は「コミュニケーション・スキル」へ、読み書きの部分は「基礎ゼミ」へ発展的に分割された。本稿では、初年次教育としての役割を担う「基礎ゼミ」の授業報告と意識調査の結果を示し、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

平成28年度の基礎ゼミは1年生の必修科目とし、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して4つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は9名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。平成27年度までのコミュニケーション講座は、1学期15回の科目であったが、基礎ゼミは通年科目となり年間30回の講義が行われた。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

平成28年度の基礎ゼミの目的は、以下の通りである。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。
- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に着ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種ドリルを通じて基礎学力の定着を図る。

2.2 授業の方法と内容

平成28年度基礎ゼミは、受講者36名を4クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は4クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、4人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや問題点などを話し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業内容は、大きく2つに分けることができる。1つは初年次教育のためのテキストを用いた回、もう1つは基礎学力を身に着けるためのドリルの回であり、基本的には各回を交互に実施した。テキストは川廷他編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』を用いた。本テキストは、大学の初年次教育用教材として作成されたものであり、全14章から構成されている。各章は、「この章のねらい」、「Scene」、「Study」、「Work」、「ワークシート」、「Homework」等から成っている。「Work」は、ペアワークやグループワークなどの活動が指定されており、学生が聞いているだけの授業ではなく、主体的に動く工夫がなされている。また、「ワークシート」は、学生が過去を振り返り、より客観的に自分自身を観察できるように作られている。テキストの回と交互に行ったドリルは、算数、漢字、公民の基本的な問題を準備した。公民のドリルは漢字が多く、留学生が予習なしに読むのは困難であったため、前の週に配布した。算数と漢字のドリルは、当日の授業で配布し、その場で問題に取り組ませた。各ドリルの時間は、回答時間と確認を合わせて20～30分であった。また授業では、適宜、レポートの書き方や発表などを行った。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	2	ドリル
	3	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	4	ドリル
	5	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	6	ドリル
	7	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	8	ドリル

	9	テキスト第5章「大学はワンダーランド」 第6章「自分を守る、他人を守る」
	10	ドリル
	11	レポートの書き方（4クラス合同・講義形式）
	12	ドリル
	13	テキスト第7章「キャンパスツアー」
	14	発表準備（4クラス合同・PC教室にて各自作業）
	15	発表（4クラス合同・「キャンパス内のお気に入りの場所」について・1人1分）
秋 学 期	16	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	17	ドリル
	18	テキスト第9章「卒業したらどうするか」
	19	発表（4クラス合同・夏休みの宿題「私のお気に入りの場所」・1人1分）
	20	テキスト第10章「生活と人生のデザイン」
	21	ドリル
	22	テキスト第11章「研究テーマを考える」
	大学祭 ポスター展示（夏休みの宿題「私のお気に入りの場所」）	
	23	ドリル
	24	ビッグデータ「RESAS」研修会（4クラス合同・外部講師）
	25	テキスト第12章「研究を進める」
	26	テキスト第13章「研究報告をまとめる」
	27	ドリル
	28	テキスト第14章「プレゼンテーションとレポート」 第15章「基礎ゼミを振り返って」
	29	就職委員会講話（4クラス合同・就職委員会）
	30	発表（4クラス合同・「基礎ゼミで学んだこと」・1人1分）

また、基礎ゼミでは、課題として週間日誌と作文を課し、2週間に1度指定の用紙に記入させて提出させた。提出された週間日誌、作文は、担当教員がコメントを付して翌週に返却するようにした。週間日誌、作文、各種ドリルは、ポートフォリオとして学生個々に管理させた。平成28年度は、学生に2穴バインダーを配布し、それをポートフォリオとした。ポートフォリオを作成するバインダーは、第1回目の授業において全員に配布した。

2.3 成績評価

ポートフォリオ（週間日誌・作文）40%、テキストのワークシート30%、発表30%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（－欠席回数×4点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。ま

た、週間日誌と作文はクラス担当教員が添削、確認を行ったが、採点の基準は「全て記入している→2点」、「記入しているが未記入の部分がある→1点」、「殆ど記入していない、全く記入していない→0点」とした。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、平成28年度基礎ゼミの春学期、秋学期の共に最終回において実施した。調査した学生数は、春学期は日本人学生17名、留学生8名、秋学期は日本人学生25名、留学生8名であった。調査した学生数の違いは、出欠の違いによるものである。

調査方法は、日本語で調査票を作成し、選択技法、5段階評定法、自由回答法で回答させた。調査票は、大学生活、勉強、基礎ゼミに関する部分に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生活について

1) 宇都宮共和大学に、1週間にどのくらい来ますか？

表 1

学期	春				秋			
登校日数	0～1 日	2～3 日	4～6 日	毎日	0～1 日	2～3 日	4～6 日	毎日
日本人	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	23 (92.0)	1 (4.0)
留学生	0 (0.0)	2 (25.0)	6 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	7 (87.5)	0 (0.0)
全体	0 (0.00)	2 (8.0)	23 (92.0)	0 (0.0)	0 (0.00)	2 (6.1)	30 (90.9)	1 (3.0)

2) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主にどこにいますか。よくいる場所を3つ選んでください。

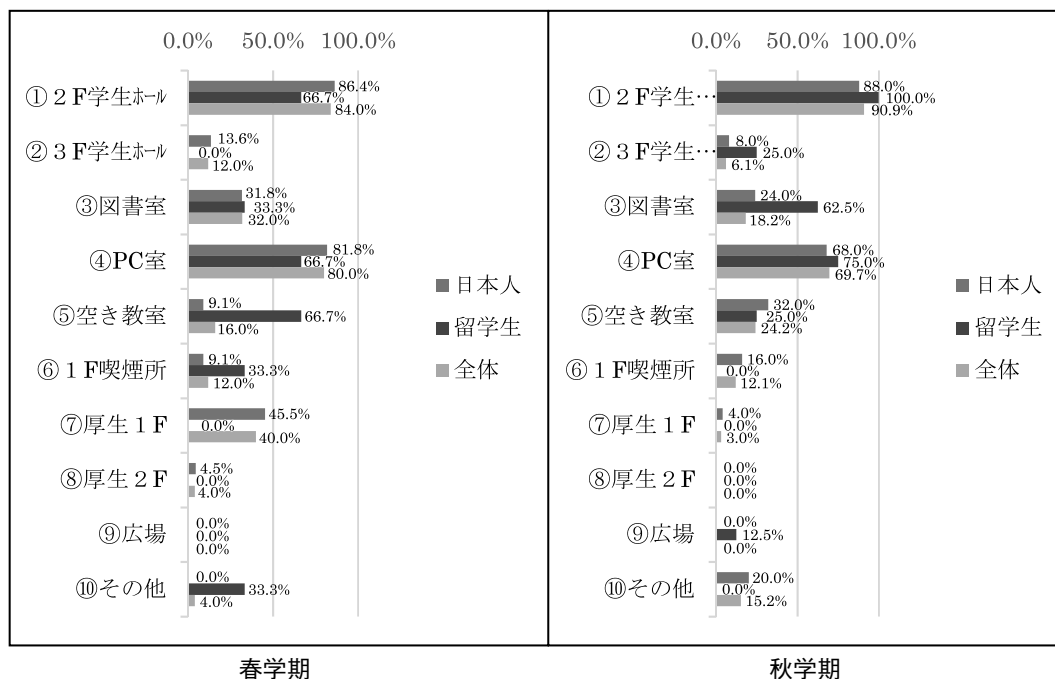


図 1

3) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主に何をしていますか。よくしていることを3つ選んでください。

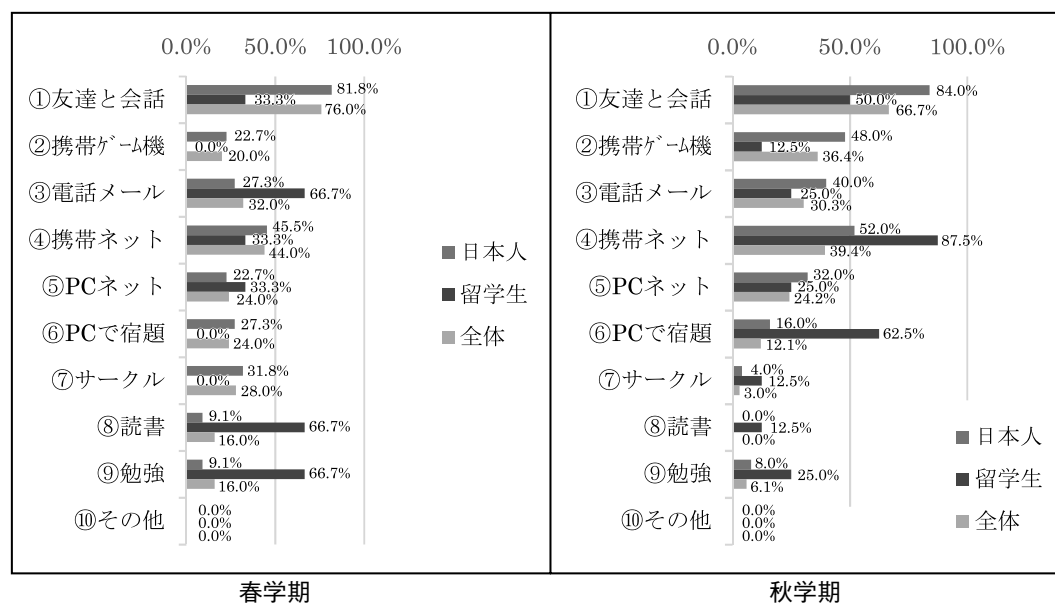


図 2

4) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、楽しいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

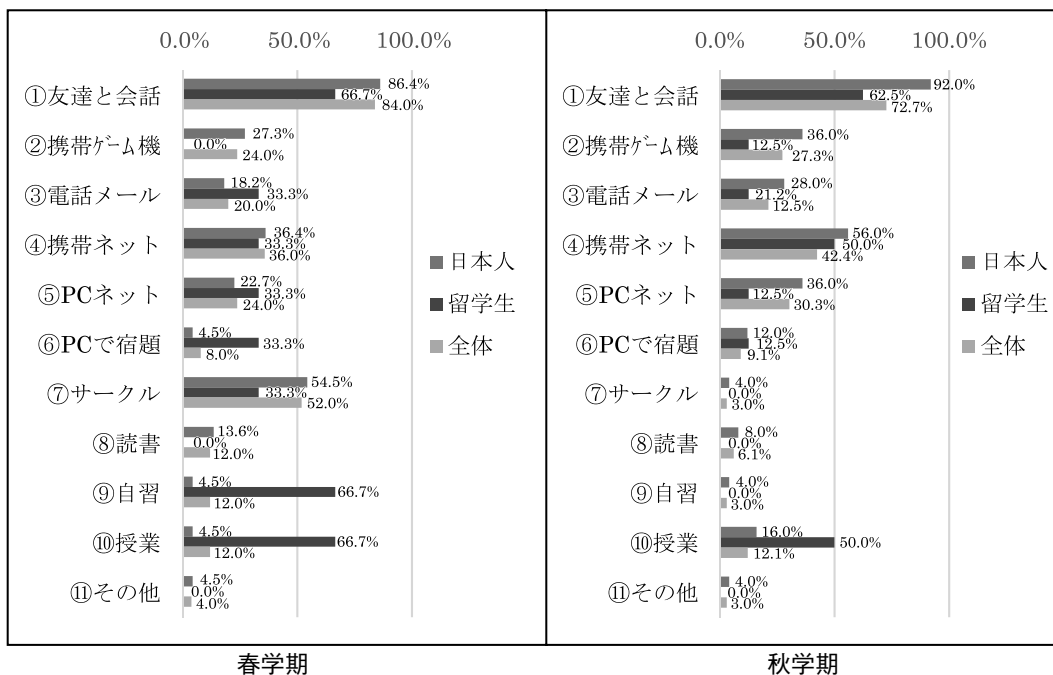


図 3

5) あなたの今の生活の中で、重要だと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

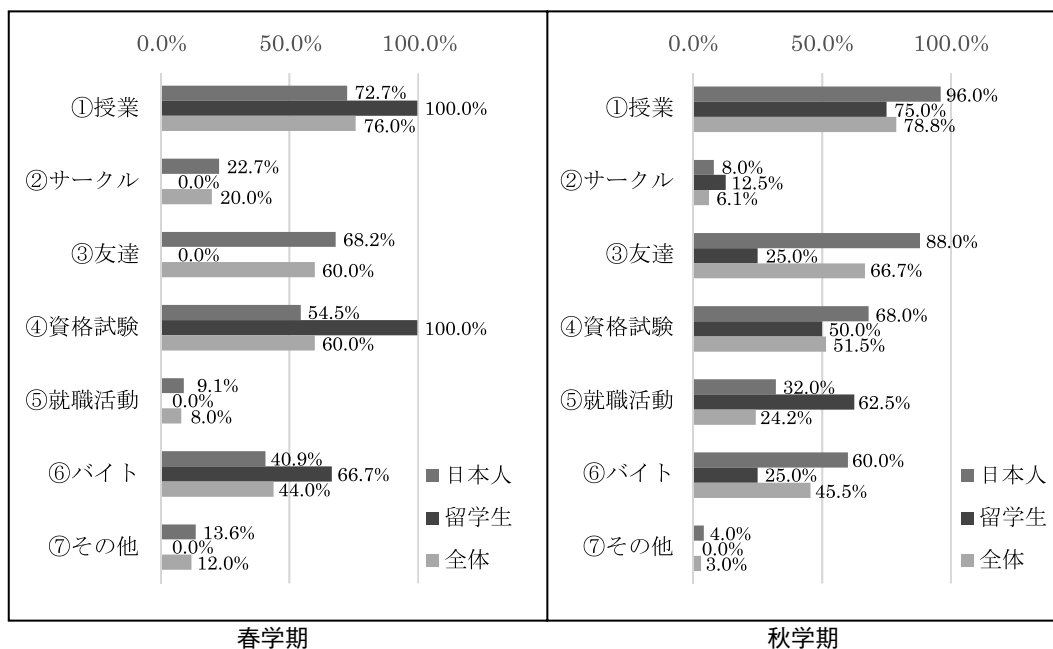


図 4

6) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、困っていることがありますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

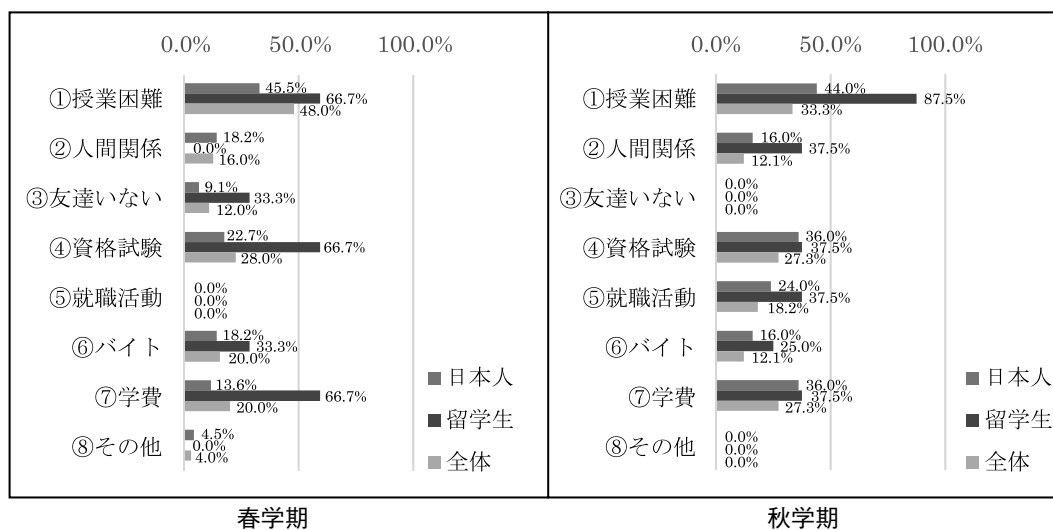


図5

7) 宇都宮共和大学に入って、友達がどの位できましたか？

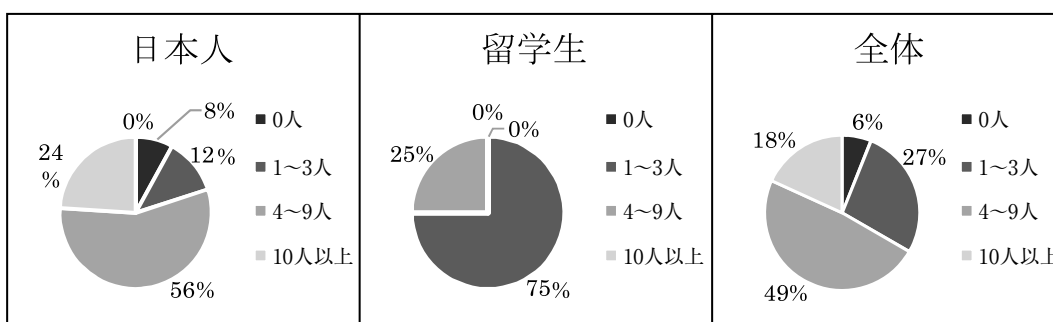
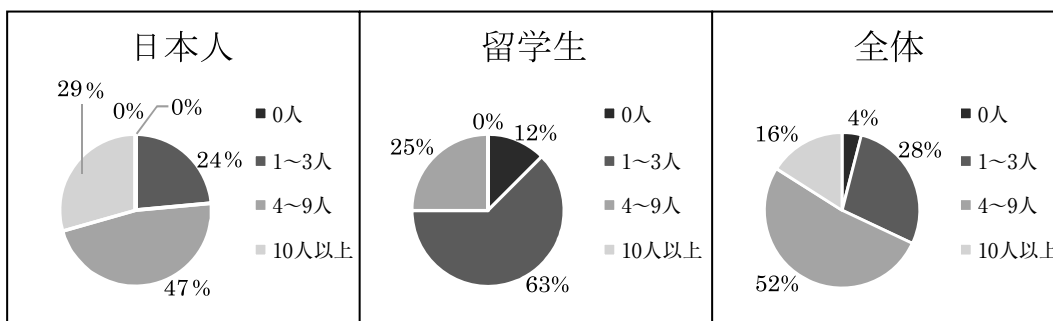
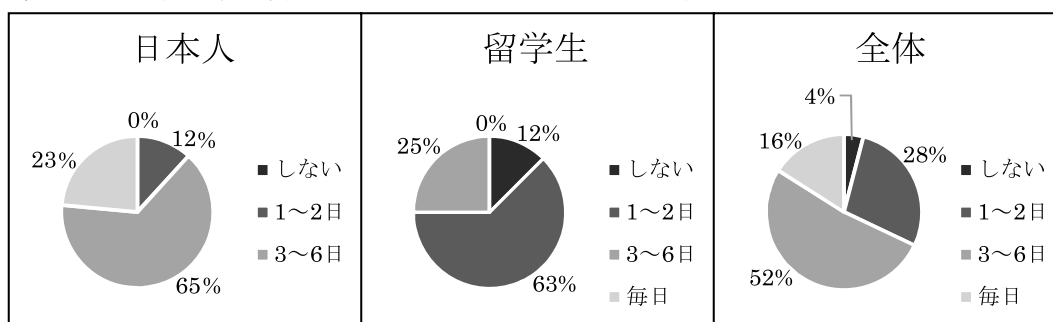
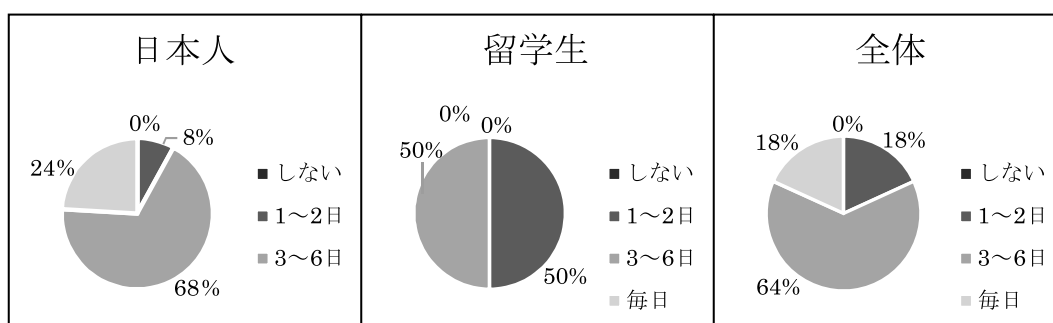


図6

8) 宇都宮共和大学の友達と1週間にどのくらい話をしますか？



春学期

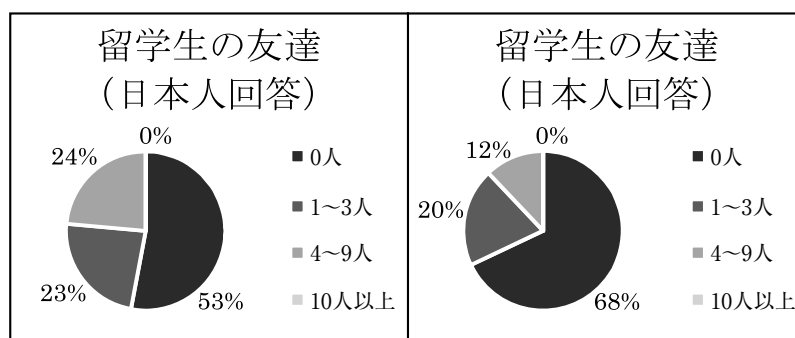


秋学期

図 7

< 9) 10) は日本人学生への質問です >

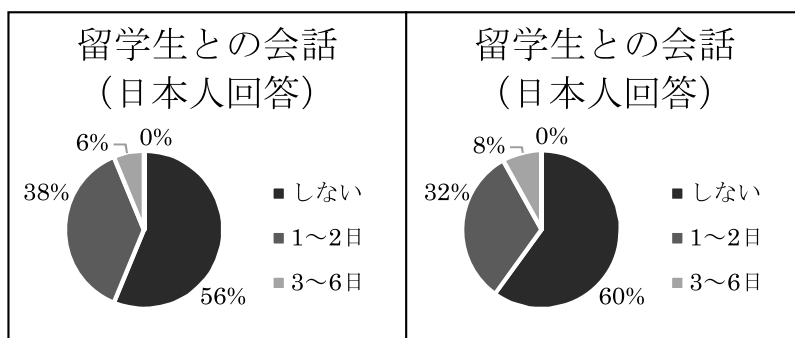
9) 宇都宮共和大学に入って、留学生の友達がどの位できましたか？



春学期

秋学期

10) 宇都宮共和大学の留学生と1週間にどのくらい話をしますか？



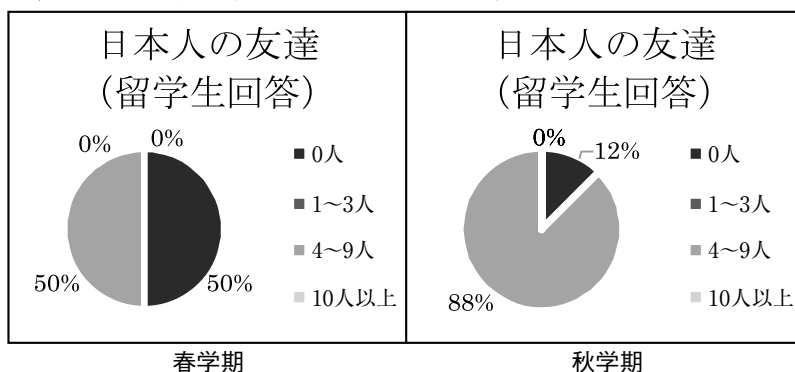
春学期

秋学期

図 8

< 11) 12) は留学生への質問です>

11) 宇都宮共和大学に入って、日本人の友達がどの位できましたか？



12) 宇都宮共和大学の日本人学生と1週間にどのくらい話をしますか？

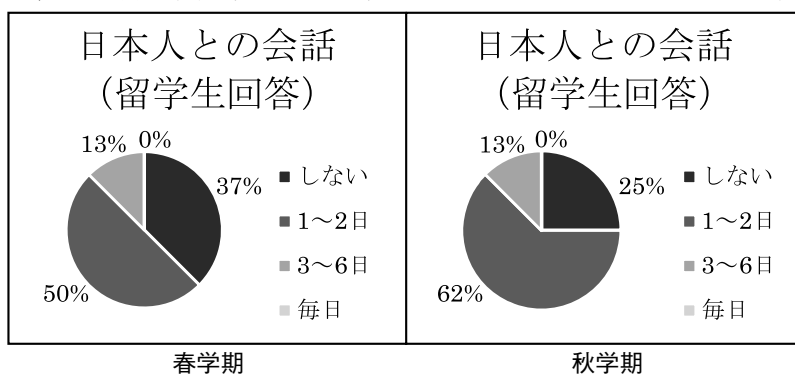


図9

質問1)は、通学の回数であるが春学期、秋学期共に9割以上の学生が週4～6日と回答した。質問2)は、学生の居場所であるが、全体では例年同様に「2F学生ホール」が最も多く、次いで「PC室」が多かった。また、「図書室」の利用については、全体では春学期32.0%、秋学期18.2%となっており、秋学期の方が少なくなっている。しかし、留学生は秋学期が62.5%と春学期よりも多くなっている。留学生は時間の経過とともにキャンパスライフに慣れ、課題や予習・復習等に取り組む時間が増えたものと考えられる。

質問3)は、授業以外では何をしているのかを聞いたものである。全体では春学期下記学期共に「友達との会話」が最も多く、次いで「携帯電話でインターネット」が多かった。また、全体では「サークル活動」が春学期28.0%、秋学期3.0%と少なくなっており、サークルへの定着度が低いことを示している。留学生では、「携帯でインターネット」が春学期33.3%から秋学期87.5%に、「PCで宿題をする」が0%から62.5%に増加している。これらは電子機器に対するリテラシーが徐々に身に着きつつあるものと考えられる。

質問4)は、生活の中で楽しいと感じることを聞いたものである。全体としては、例年通り、「友達と会って話すこと」が最も多かった。また、学習に関する項目「PCで宿題」、「読書」、「自習」、「授業」等は少なかった。学ぶということに対する興味関心、意欲、そ

して楽しいと思う気持ちを高めるための工夫が必要と思われる。「サークル活動」の項目については、前の質問3でも触れたが、質問4の結果では全体で春学期52.0%から秋学期3.0%と減少している。既存のサークルでは楽しめないのであれば、新たにサークルを新設させる等、学生が主体性を持ってサークル活動に参加できるように促していくべきだろう。

質問5)は、生活の中で重要なことを聞いたものである。例年同様、全体では「授業」、「友達付き合い」、「資格試験」、「アルバイト」に重要性を感じていることが分かる。ここでも「サークル活動」は数値が低く、新入生のサークル離れを示しているものと思われる。

質問6)は、生活の中で困っていることを聞いたものである。「授業が難しい」と感じている学生は春学期よりも秋学期が減少している。時間の経過と共に大学の授業に慣れた結果であろう。資格試験の項目で春学期の留学生の割合が高いが、これは日本語能力試験が7月に行われ、調査実施の時期と重なったためと考えられる。

質問7)、8)は、友達がどの位できたか、1週間にどの位話をするかを尋ねたものである。殆どの学生は本学に入学してから新たな友人ができていようだが、新たな友達ができない者や話をしない者が少数ながらいることが分かる。

質問9)～12)は、日本人は留学生の友人ができたかどうか、留学生は日本人の友人ができたかどうかを聞いたものである。日本人学生では春学期53%、秋学期68%、留学生の友人がいない。秋学期において増加しているのは、秋学期の方が被調査者が多くなったためである。また、日本人学生は留学生と話をしないという割合も高く、春学期56%、秋学期60%となっている。一方、留学生は、日本人の友人がいないという割合が春学期50%から秋学期12%に減少している。また、日本人学生と話さない割合も春学期37%から秋学期25%に減少している。この結果から、日本人学生は特定の学生が留学生と話をするが、留学生と交流を持たない者は時間が経過しても交流をすることはない、ということが分かる。したがって、入学して間もない段階において日本人学生と留学生が打ち解けて話ができる機会を設けるべきと考える。

次に大学生活に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生活に満足している ③大学生活は楽しい ④大学生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している

⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）により回答を得た。

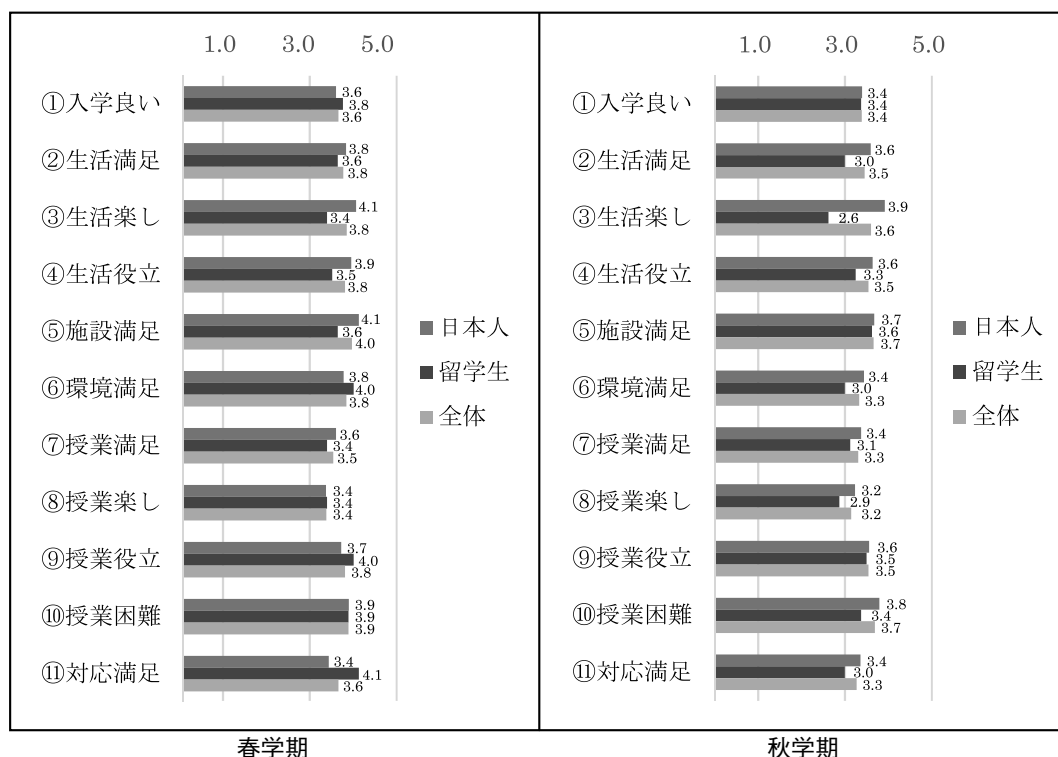


図10

まず、質問1の「入学して良かった」については、春学期3.6、秋学期3.4であり、例年よりも厳しい結果となった。全体として4.0を超えたものは、春学期の「大学の施設に満足しているか」という質問に対してのみだった。また、全体としては春学期よりも秋学期の方が全ての項目において数値が低下しており、時間の経過と共に大学生活に対する評価が厳しくなっていることを示している。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述】

<日本人学生：春学期>

- ・ エアコンをつけすぎていると思うので、もう少し節約した方がいいと思います。
- ・ たばこの空間が建物とロッカーの間にあるので毎度とおらないといけないのが辛い。
- ・ 教員の教え方については、ただ教科書を読むだけではなく、分かりやすくまとめたものがほしいです。
- ・ まとまりのない話をただダラダラと展開するだけの先生の授業が良く理解できない。
- ・ もう少し課題を増やしてもいいと思う。授業のレベルをもっと上げてほしい。

<日本人学生：秋学期>

- ・ もっと取れる資格を増やした方が良いと思います。
- ・ 授業予備日をまとめてほしい。

4.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい）を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

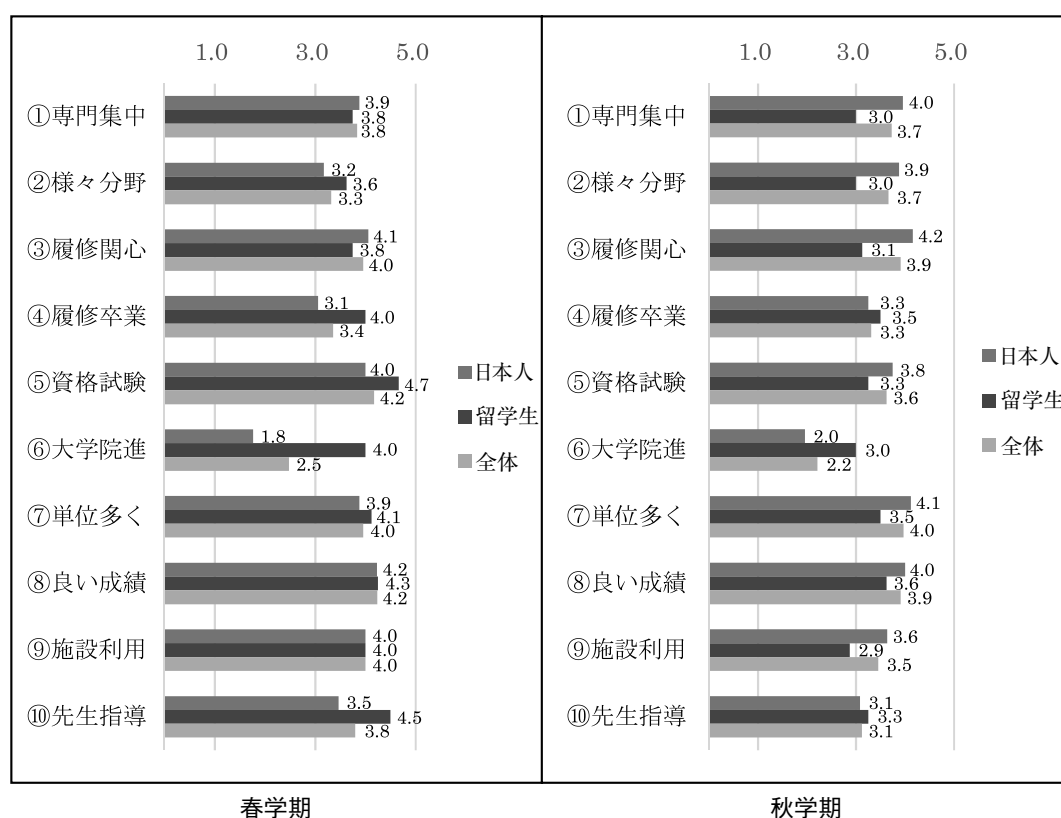


図11

まず、全体の結果を見ると、春学期の質問3、質問7、質問8、質問9、秋学期の質問7が4.0となっている。優秀な成績を取りたいという意識が高いことが伺える。全体で数値が低いものは、例年同様、質問6の大学院進学についての項目であった。

4.2.4 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、春学期は14項目の質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミを通じてレポートの書き方が分かった ⑤基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑥基礎ゼミでのグルー

プでの話し合いは楽しかった ⑦週間日誌を書くのは役に立った ⑧週間日誌を書くのは面倒くさかった ⑨作文を書くのは役に立った ⑩作文を書くのは面倒くさかった ⑪週間日誌、作文を教員がチェックするのは良かった ⑫算数ドリルは役に立った ⑬漢字ドリルは役に立った ⑭公民ドリルは役に立った)、秋学期は春学期の14項目に1つ加えて(⑮グループ替え、教員交代があつて良かった) 15項目の質問を設置した。回答は、5段階評定法(1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う)によった。

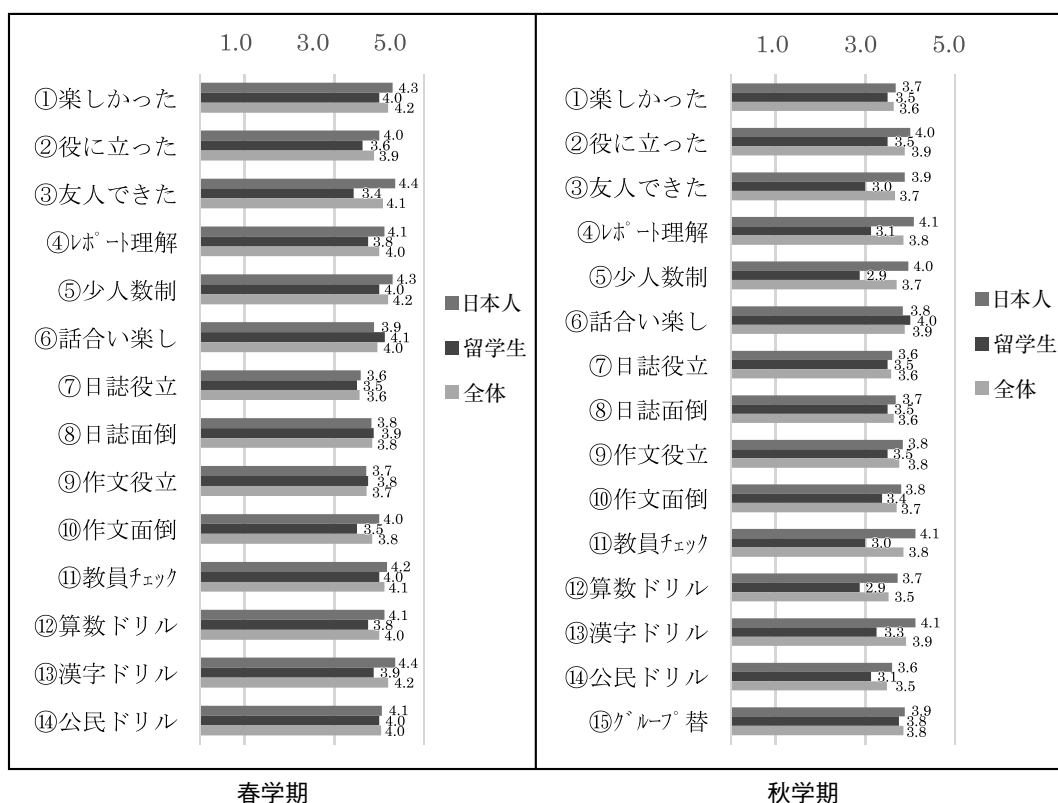


図12

まず、全体の結果で3.5に満たないものは、1項目も無かった。したがって、基礎ゼミは概ね好意的に評価されていると言えよう。しかしながら、多くの項目で春学期より秋学期の評価が低下した。これには様々な原因があろうが、その一つとしてテキストの内容の変化が挙げられよう。今回使用したテキストの前半は、主に大学生活をどのように送ればよいかを考える内容であるが、後半は研究の方法やプレゼンテーション等、アカデミックな内容であったため、実際の授業においては進行が円滑に行かないことが多々あった。初年次教育用のテキストではあるが、大学間や学生間のレベル差を踏まえると、本学の初年次教育に使用するためには、テキストの内容を一部省略したり、簡略化したりする必要があるだろう。今後は、そうした本学の状況を踏まえて、課題等を提示していきたい。

次に、基礎ゼミについての要望や意見を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【コミュニケーション講座について】

＜日本人学生：春学期＞

- ・ 私は人見知りなので最初はまったく慣れなかったです。少人数でたのしかったです。
- ・ 秋のクラス分けが楽しみです。
- ・ 今のまま最後までこのメンバーがいい。
- ・ 一年間同じで良いと思った。
- ・ 1年間同じでいいと思う。
- ・ 先生を変えないでほしい。

＜日本人学生：秋学期＞

- ・ 教員が交代してやり方はあまり変わらなかったが、新鮮な気持ちで受けることができた。

平成28年度の基礎ゼミでは、春学期、秋学期でクラス編成を2回行ったが、1回で充分だという意見が見られた。クラス替えは、より多くの学生、教員と知り合うための措置であったが、秋学期はクラス内での自己紹介タスク等も無かったため、お互いのことをよく知らないまま時間が経過してしまったのかもしれない。今後は、新クラス編成時にアイスブレイキング等の活動を導入し、学生間のコミュニケーションを促進させる措置を講じたい。

5 まとめと今後の課題

本稿では、宇都宮共和大学における平成28年度の基礎ゼミの授業報告と、本科目を受講した新入生に対して行った意識調査の結果を示した。

授業報告では、平成28年度から新たに開講した基礎ゼミの概要を説明し、授業内容の一覧を示した。意識調査は、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

平成28年度に開始された基礎ゼミであるが、いくつかの課題も残った。以下は、基礎ゼミ担当者間で行ったミーティングの際に出された意見である。

- ・ 男子学生は、グループディスカッションで積極的に発言をしない。
- ・ 女子学生は、親しい女子学生とばかり話をする。
- ・ 留学生は、テキストやドリルの漢字が読めない。留学生のために公民のドリルを事前に配布したが、ほとんど予習をしてこなかった。
- ・ 4年生の卒業発表会は、基礎ゼミの最終回にしてはどうか。
- ・ 春学期、秋学期、それぞれの学期の発表は単位取得のためには必須とする。
- ・ 漢字ドリルは、後半難しい。ドリルは、漢字以外も要検討。

- ・週間日誌が単調になりがち。
- ・留学生のサポートとして優秀な学生をチューターとしてつけるのはどうか。
- ・アルバイトに力を入れすぎている学生が多く、生活が不規則になっている。
- ・決められた状況、役割の中で、自由に話すことができない。
- ・テキストは後半難しいが、全体的には適切な内容である。

以上の点を踏まえ、来年度は新入生がより良い学生生活を送れるよう、そして学びに対して楽しさを感じられるよう授業を改善していきたいと考えている。

【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2010）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題－平成21年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第11号
- 松田勇一（2011）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(2)－平成22年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第12号
- 松田勇一（2012）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(3)－平成23年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第13号
- 松田勇一（2013）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(4)－平成24年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第14号
- 松田勇一（2014）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(5)－平成25年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第15号
- 松田勇一（2015）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(6)－平成26年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第16号
- 松田勇一（2016）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(7)－平成27年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第17号

謝辞：平成28年度の基礎ゼミでは、本学の高丸圭一准教授、石井誠専任講師、小浜駿専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。